

クリーンテック戦略月次レター（2021年6月の振り返り）

米インフラ投資に期待

バイデン政権、1.2兆ドルのインフラ投資計画で上院超党派と合意、クリーンテクノロジー分野への投資も加速へ

6月の世界株式市場は、5月に続いて上昇し、5月後半から見られたグロース株の復活が6月も続きました。クリーンテック戦略ポートフォリオのパフォーマンスは世界株式（MSCI ACWI、米ドルベース）を上回りました。

6月下旬には、バイデン米大統領は1.2兆ドル（約132兆円）規模のインフラ投資計画について超党派の上院議員団と合意に至ったと発表しました。法案の成立には



米国では長期にわたりインフラ関連への公共投資が滞ってきたため、水道や電力設備の老朽化が進んでいます。

今後さまざまな曲折が予想されますが、同計画には電気自動車（EV）充電設備の拡充に加え、水道などの伝統的インフラ整備、環境修復などクリーン・テクノロジー分野への新規投資も含まれます。

すっかり老朽化している全米の電力や水道インフラなどにおいて耐久性を高めるための大規模投資の必要性が高まっており、多様なクリーン・テクノロジーを提供する企業への投資機会が広がっています。

G7では気候変動問題が重要議題に

また、6月中旬に英国で開催され、バイデン大統領が初参加したG7サミットでは、気候変動問題が重要議題となりました。主要国は2030年の温室効果ガス削減目標、2050年までの「実質ゼロ」目標への対応をコミットしました。排出削減対策のない石炭火力への新規の国際支援を年内に終了することでも合意しました。同じく英国が議長国を務める第26回気候変動枠組み条約締約国会議（COP26）が、今年11月に開催される予定です。5月に国際エネルギー機関（IEA）が発表した2050年に向けた脱炭素への工程表（ロードマップ）に加え、バイデン政権のインフラ投資計画やG7のコミットメント、そして来るCOP26は、各国および企業の気候変動への取り組みを加速させるため、クリーンテック戦略へのさらなる追い風になるとみられます。



米国などでのEV充電設備への投資拡大が、EV普及を加速させる見込みです。

インフラ投資の加速が、EV普及見通しをさらに押し上げています。

ポートフォリオの動向

6月は、グロース株への回帰に伴い足元で軟調だった銘柄のパフォーマンスが回復し、プラス寄与となりました。

スマートエネルギー分野では、エネルギー効率化の専門企業アメレスコが堅調で、エネルギー効率や再生可能エネルギー関連プロジェクトに資金を供給するハノンアームストロングはグロース株回帰の恩恵を受けました。太陽光発電装置向けガラス製品製造のシンイー・ソーラーも堅調でした。

低炭素輸送分野では、テスラやシリコン・ラボラトリーズがプラス寄与となりました。テスラは4~6月期のEVの世界販売台数が前年同期比で2.2倍となり、四半期ベースで初めて20万台の大台に乗せ、過去

なお、BNEF（エネルギー移行に関する分析・リサーチを行うブルームバーグ社のサービス）は「電気自動車（EV）アウトルック2021」を発表し、新素材や新技術の導入により車載電池の価格が急速に低下していることを指摘しています。これは世界的なEVの普及を後押しすると見られます。同アウトルックによれば、主要自動車市場における政策支援、車載電池の技術革新と価格低下、充電インフ

最多を更新しました。なお、6月26日の中国当局の発表によれば、テスラは中国で販売したEV約28万台について自動運転システムの不具合でリコールを実施します。しかし、遠隔でのソフト更新で不具合を解消できることもあり、テスラの株価への影響は限定的でした。

天然資源保全関連では、米国のインフラ投資計画の恩恵が期待できる銘柄がプラス寄与となりました。水質管理・保全を手掛けるエヴォクア・ウォーター・テクノロジーズや、スマートメーター技術を提供するアイトロンなどです。インフラ投資計画では人体に有害な鉛製の水道管を全面的に交換する予定で、水処理エンジニアリングの総合企業であるエヴォクアが注目されています。

関連リンク

[エネルギー移行に拍車:IEAが2050年脱炭素への大胆なロードマップ発表、クリーンテックへの追い風に](#)

[EVの世界的な浸透一段と:米中の気候変動対策への取り組み加速で、エネルギー移行関連投資も拡大へ](#)

[ネットゼロシフト加速:気候変動サミット受け、政府・企業で野心的取り組み浮上。再生可能エネルギーの導入がカギ](#)

[再生可能エネルギーに注目:洋上風力発電に大きなポテンシャル、日本でも重視](#)

[日本、EVで巻き返しへ:政府、自動車メーカーと連携しインフラ整備](#)

[脱炭素化へ政策支援加速:日本を含む主要国、カーボンニュートラル達成目標掲げる](#)

[アクサIMのクリーンテック戦略について](#)

ディスクレーム

アクサIMについて

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサIM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年3月末時点で約8,690億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサIMは、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年3月末時点で5,740億ユーロにおよぶESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、

全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサIMは20カ国27拠点において2,440名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はおお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第16号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-21629